

【別紙様式Ⅰ】 令和6年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立森の里小 学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 杉山 仁

学校教育目標

学校経営の方針

自分で考え 判断し 行動する子の育成

教育基本法、小学校学習指導要領等関係諸法令並びに神奈川教育ビジョン、厚木市教育大綱に基づき、児童の実態を踏まえ、地域社会の期待に応え、地域とともに育てる学校経営に努め、教育目標の具現化を図る。

今年度の重点目標

【めざす児童像】 ◎かかんがえる子 ○おもいやる子 ○げんきな子
【めざす学校像】 あいさついっぱい 笑顔いっぱい 森の里小学校

A＜主体的に学ぶ力の育成＞

- ①社会に開かれた教育課程」の追究
- ②確かな学力の向上
- ③道徳教育の充実
- ④読書活動の充実(学校図書館の利用)
- ⑤幼・保・小・中の連携

B＜実践力の育成＞

- ①自主的・実践的な集団活動(児童会活動等)を通した、人間関係形成力の育成
- ②児童の安全確保と安全教育(防災も含む)の充実
- ③クロームブック活用による授業づくりの推進

C＜豊かな心と健やかな体の育成＞

- ①個を大切にした支援教育の充実
- ②インクルーシブ教育の理解と実践
- ③きめ細かな児童指導の推進
- ④体力づくりの推進
- ⑤健康教育と食育の推進

D＜学校管理体制の充実＞

- ①学校運営組織の見直しと学校情報の発信
- ②「働き方改革」の積極的な推進
- ③危機管理体制の充実
- ④予算、補助金の適切かつ効果的な活用
- ⑤適切な施設設備管理

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校教育目標の周知	1・2・3	・学校HPや学校だより等への常時掲載による周知 ・朝会や学校行事等での周知 ・児童会活動等、児童の活動場面での周知	本校の学校教育目標が児童・保護者に概ね伝わっているということが分かるが、児童は昨年度より「あまり思わない」と答えている割合が増えている。	日頃の教育活動の展開において、教師が児童に伝えていく必要があると考える。 学校教育目標の100%周知を目指し、個別懇談等、様々な場面で話をする機会を設ける。 また、学校HPや学校だより等、掲載の仕方を工夫する。
家庭学習の習慣が身についているか	1	・学習内容に応じた家庭学習用の課題 ・タブレットの持ち帰りによる自主学習の啓発	「とても思う」「思う」と答えた保護者の方と児童の割合から、家庭学習が定着している児童は多いと考えられる。取り組み方については、もう少し丁寧に取り組む必要がある児童もいると感じている。	家庭学習の習慣が身に付いていないという児童に対して、宿題の量や内容を検討していく。AIドリルなどの活用を通じて、個別の課題も検討していく。

人を思いやり、助けあう気持ちの育成について	2・3	・特別活動を通した人間関係形成 ・いじめアンケート及び児童を対象とした教育相談の設定	児童・保護者ともに、「とても思う」「思う」が多く、教員は思いやりのある児童に育つために努力している姿勢がうかがえる。	引き続きこれまでの取組を継続して行う。そして、一部評価の低い児童に対して、プッシュ型面談を行うなどすることで実態を把握し、児童が「思いやり」や「助け合いの気持ち」を高められるような支援をしていく。また、全校道徳の有効活用について検討する。
学校の約束やきまりに対する意識の持ち方について	1・3	・児童指導担当による月別めあての確認 ・児童指導担当による啓発	本校の児童は、約束を守ろうとする意識が高い。今後も継続的に呼びかけるなど、意識付けしていく。また、学級だけでなく、学校全体としても、森小のきまりを守らせていきたい。	教員だけでなく、なぜそのようなきまりがあるのかという意味を、代表委員会を通して児童にも考えさせることで、主体性を養っていききたい。そして決定した内容に関して、全職員で共通した指導を行っていく。
挨拶について	2・3	・教職員から児童・保護者・地域の方への挨拶 ・日々の声かけ及び指導 ・児童会を中心としたあいさつ運動	挨拶について教員は指導している意識は高く、児童もできていると答えている。一方、保護者からは、「やや思わない」「そう思わない」という意見もあることから、家庭と学校では挨拶に関しては捉え方に差があることが分かる。	教職員が積極的に挨拶をすることで、少しずつ自分から挨拶できる子が増えている。見守りの方などへの挨拶がもう少しできるようにするために、朝会での紹介等を継続して行っていく。
安全について (防犯ブザー・ヘルメット着用・交通ルールの遵守)	2	・年3回の避難訓練、引渡し訓練、交通安全教室、防犯教室の実施 ・防犯ブザー携帯調査の実施 ・校外指導(学区箇所の見回り時での声かけ等)	ヘルメットの着用率や安全に対する意識は高いものの、一定数「できていない」と感じている児童・保護者がいる。	交通安全教室の内容を考える必要がある。また、安全点検日に合わせ、防犯ブザーのチェックをするなど、日常的に安全について考える場面を設定していく。
保護者・地域との積極的な協働活動に取り組んでいるか	1・2・3	・生活科・総合的な学習の時間を中心とした地域学校協働活動の推進	本校の特色として、「地域学校協働活動」があげられる。地域から学校の教育活動について理解・協力を得た結果が、児童・保護者の評価の高さに反映していると考ええる。また、昨年度に比べ教職員の「とても思う」の割合が増加している。	地域学校協働活動推進員と窓口となっている担当教員の他、学級担任との連携をすすめる。 児童が「森の里」を自分たちのふるさととして誇れるよう、各教科の活動の充実に努める。
基礎学力を定着させるための「わかる授業」となっているか	1	・地域の協力による体験活動 ・校内研究や年次研修、自己研鑽による研修の受講 ・ICTの積極的な活用 ・「みんなの教室」の運用及び活用	教職員は「わかる授業の実践」に努めてはいるものの、授業が分からないと答えている児童もいるため、全体の授業に併せて個人に適した学習を進める必要があると考える。	「みんなの教室」との連携を図る。また、基礎学力の捉えを、あらためて学校で共有し、児童の実態に合った授業の組み立てを考えていく。校内研究や校外での研修を積極的に活用できるようにしていく。
特別活動を通した自主性・責任感の育成	1・2	・縦割りにより昼休みを活用したグループ活動 ・児童会が主となり計画・実施した「秋の集会」といった縦割り活動	高学年がリーダーシップをとる機会となっているため、上学年や下学年との関わり方がスムーズになっていると考える。本年の秋の集会では、縦割り活動にすることで児童同士の関わりがもてたので、来年度も縦割り清掃や縦割り活動といった実践を通して、自主性や責任感が育つように実践を図っていく。	今後も集会活動を中心に、子ども達自身が考え、実践できるよう、特別活動の充実に進めていく。また、学級活動での話し合い活動についても適切な課題を提案していく。

個に応じた支援、指導の充実 及び相談体制について	1	・「みんなの教室」の活用 ・学力ステップアップ支援員の活用 ・教育相談COを中心とした、担任や養護教諭、SC及びこころスマイル支援員との連携	教員は、個に応じた指導をしている意識が高いが、「そう思わない」と答えた児童も一部見られる。自分からわからないことを聞くことに抵抗があるのではないかと考えられる。	子どもが聞きやすい、話しやすい環境となるよう必要に応じて、支援会議・ケース会議を開いたり、SCやこころスマイル支援員を活用したりするなど個に応じた指導を図ります。また、みんなの教室のより有効的な活用についても検討していく。
健康的な生活を送るための支援ができていますか	1・2・3	・投げ方教室の実施 ・体力づくり旬間の設定(なわとび、持久走) ・ロング昼休みを継続することによる運動の機会の設定	教員も児童も保護者も、健康についてしっかり考えられているという傾向が見られる。	健康的な生活を送るため、新体力テストの結果を生かし、投げ方教室や体力づくり旬間、外遊びやロング昼休みの継続等の取組を今後も行う。また、委員会活動(衛生検査など)の充実を図りながら、学校保健委員会などを通して保護者や地域への健康に関する様々な情報を提供していく。
児童・保護者・教職員それぞれの災害・防犯に対する意識について	2・3	・避難訓練や実際の事案をとおしでの指導 ・「防災」をテーマにした5年生の総合的な学習の時間の取組(地域協働)	防災・防犯に対して意識が高く保てるよう、今後とも、指導、啓蒙を図っていく。また、いざという時に、状況や場面に応じた判断ができるよう、避難訓練、引き渡し訓練、集団下校指導などを通して、自分の命を自分で守ることを意識させていく。	避難訓練、防犯教室等を定期的に行うことで、防災意識や防犯意識を高めていく。5年生の総合的な学習の時間で学んでいる防災の活用についても具体的に考えていく。また、朝会等を活用した意識向上にも取り組んでいく。
学校教育活動の情報等の発信について	1・3	・学校だよりや学校HP(学校ブログ)、学年だよりでの情報発信	学校HPの主に学校ブログでは、日頃の児童の様子が伝わるよう発信を行っている。 また、学校だよりは各家庭への配付、地域への回覧を通して、校長の考えや学校運営協議会の活動の様子を伝え、本校の教育活動を知っていただく大事な機会と捉えている。	学校からの発信について、保護者・教職員ともに一部評価が低くでているため、学校だよりの配付、地域への回覧を継続する。 また、学校HPの更新回数増加を目指す。 なお、現在、試用期間中の連絡メールアプリ・totoruの運用について検討し、保護者や地域の皆さんに学校の様子が伝わるようにする。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

本校の特色である「地域学校協働活動」については、児童や保護者の評価の高さから充実したものとなったといえる。今後は「持続可能」という点からもより充実したものとなるようにしたい。地域との協働という点では、次年度から運動会が地域と合同になる初めての年になる。「まずやってみる」そこからどう改善していくかを含めて、考えていく必要がある。「防災」という点では、今年度、5年生が総合的な学習の時間で取り組んでいたが、活動については地域側にとっても改めて地域防災を考える点でとてもよかった。今年度は防災キャンプが悪天候により実施できなかったことから、次年度も「地域防災」という点から地域と学校の取組が継続できるとよい。

学校評価については、学校運営協議会の各グループが重点で取り組んできたことと質問内容が合うように、次年度はグループ毎にアンケート項目を早めに設定し、年間で活動していくことで学校評価を取りたい。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

学校経営は概ね良好であった。昨年度より年間の地域学校協働活動の活動数が増えたことから、保護者や地域の方に本校の教育活動をより理解していただき協力を得られていると感じた。今年度は職員の入れ替えが多くあったが、どの職員も本校の特色の理解に努めていた。次年度以降も引き続き、児童の実態や保護者・地域の考えや思いを大切に、児童の健やかな成長を支援していきたい。また、安全についてはヘルメットや防犯ブザーの携行に関して課題があることから、防災と含め力を入れていきたい。